

## オーストラリア金融政策(2017年8月)

～政策金利は据え置き～

～目先の為替市場のテーマは金融政策よりも資源価格～

2017年8月1日

### お伝えしたいポイント

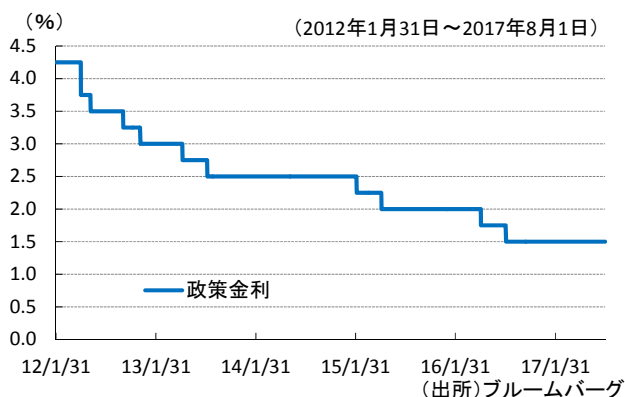
- RBAは政策金利を1.5%に据え置き
- CPI上昇率はRBAのインフレ目標の下限を下回る
- 目先の為替市場のテーマは金融政策よりも資源価格

### <RBAは政策金利を1.5%に据え置き>

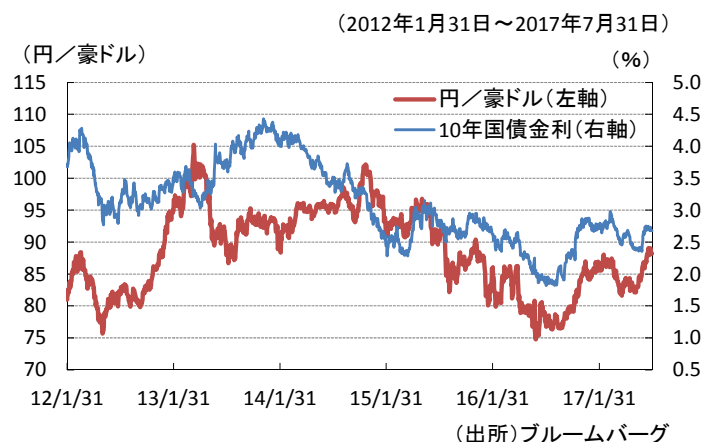
2017年8月1日(現地、以下同様)、RBA(オーストラリア準備銀行)は政策金利を発表し、1.5%に据え置きました。据え置きは事前の市場予想通りでした。

声明文では、オーストラリア経済についての見通しに大きな変更はなく、RBAは年率3%程度の経済成長を見込んでいます。労働市場に関しては、雇用者数は増加しており、失業率も低下が見込まれるものの、賃金上昇圧力は依然として弱いままと言及しました。物価については、経済が成長するにつれて、徐々に上昇してくるであろうとの見通しが維持されています。為替については、通貨高が景気とインフレを予想よりも減速させる可能性があると言及しました。金融政策に関しては、RBAは引き続き中立的な姿勢を維持しており、当面の政策金利据え置きを示唆しました。

《オーストラリアの政策金利の推移》



《豪ドル円とオーストラリア国債金利の推移》



※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

## <CPI 上昇率は RBA のインフレ目標の下限を下回る>

前回 7 月の RBA 理事会以降に発表された経済指標で当社が注目したのは、7 月 26 日に発表された 2017 年 4-6 月期の CPI (消費者物価指数) です。CPI は前年比 1.9%の上昇と、RBA のインフレ目標水準である+2~3%の下限を下回りました。

CPI を構成する貿易財と非貿易財の価格を見ると、貿易財価格の伸びが弱いことが分かりますが、これは一過性の要因によるものだと考えています。一方で、非貿易財価格は伸びが加速していますが、当価格に影響すると考えられる賃金の上昇が依然として鈍く、現状では賃金がインフレにとっての大きなドライバーになっているとは言えません。

RBA のロウ総裁は 7 月 26 日の講演で、労働市場が堅調であるにも関わらず賃金上昇率が伸び悩んでいる理由について、労働者に占めるパートタイム労働者の割合が上昇している点などを指摘しました。

ロウ総裁の講演からは、堅調な労働市場にもいまだに緩みが残っていることがうかがえます。そのため、当社は RBA が労働市場の改善を促すために政策金利を当面は据え置くと考えています。労働市場の改善が続けば、賃金上昇率の加速を通じて、非貿易財価格を押し上げ、ひいては CPI の上昇圧力を高めるとみています。

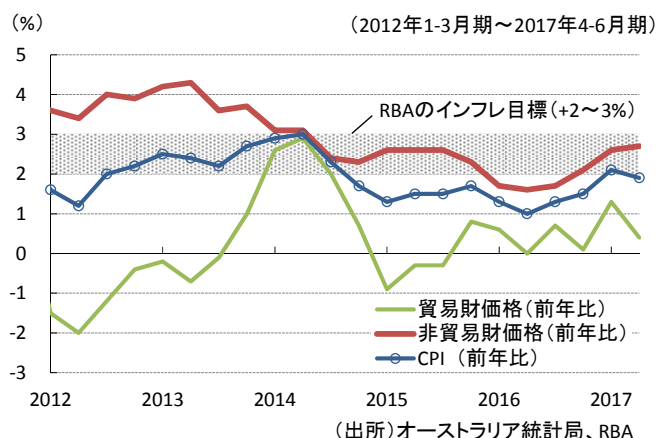
## <目先の為替市場のテーマは金融政策よりも資源価格>

市場では利上げ開始時期について、2018 年半ばを見込む声が多く、利上げ開始時期が近くなるまで金融政策は市場のテーマになりにくいと見込んでいます。

最近の豪ドルの上昇は、当社マーケットレター「最近の豪ドルはなぜ上昇しているのか? (2017/7/21)」でお伝えしたとおり、資源価格、特に鉄鉱石価格が大きな要因となっています。金融政策の変更がしばらくないと見込まれる中、金融政策よりも資源価格が為替市場のテーマとなる状況が続くと考えており、資源価格の動向には注意しています。足元では、鉄鉱石価格の反発やその背景にあるとみられる堅調な中国経済が、引き続き豪ドル相場の支援材料になるとみています。

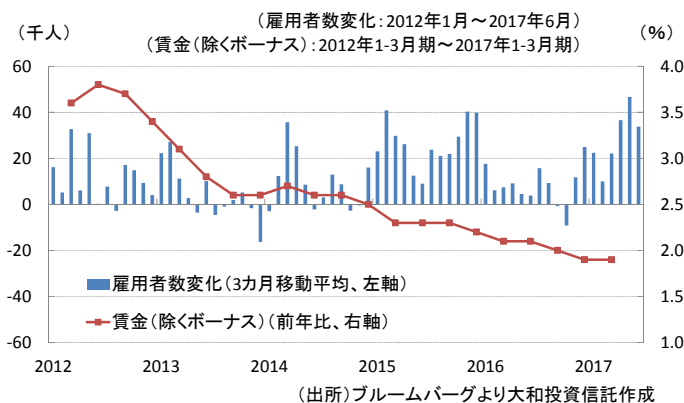
以上

## 《オーストラリアの CPI の推移》

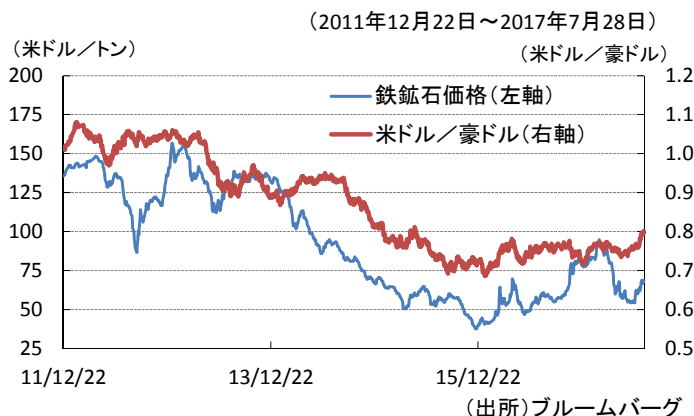


※貿易財とは衣料品や家具、車といったオーストラリア国内の生産・消費に対して輸出入の割合が大きいもの、非貿易財とは医療や教育、金融サービス、住宅といった輸出入が難しいものが含まれます。

## 《オーストラリアの雇用者数の変化と賃金の推移》



## 《豪ドル(対米ドル)と鉄鉱石価格の推移》



※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

## <ご参考> 当社の関連リサーチ

下記のリサーチでは、直近のオーストラリアに関するテーマやその背景などをお伝えしています。

### ◇マーケットレター

- ・最近の豪ドルはなぜ上昇しているのか？（2017/7/21）

[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20170721\\_2.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20170721_2.html)

- ・オーストラリア金融政策（2017年7月）～政策金利は据え置き～移民による人口増加を背景に長期的な経済成長を見込む～（2017/7/5）

[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20170706\\_1.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20170706_1.html)

- ・オーストラリア金融政策（2017年6月）～政策金利は据え置き～インフラ投資をエンジンに成長持続へ～（2017/6/6）

[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20170606\\_2.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20170606_2.html)

- ・オーストラリア金融政策（2017年5月）～政策金利は据え置き。将来の利上げ時期が早まる可能性。～（2017/5/2）

[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20170502\\_1.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20170502_1.html)

- ・豪州は政策金利の据え置きを決定～利上げを急がない姿勢を示す（2017/4/5）

[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20170405\\_2.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20170405_2.html)

- ・【ファンドマネージャーの運用ノート】資源価格反発と保護主義の台頭から、オーストラリアの魅力が高まる環境へ（2017/2/20）

[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20170220\\_1.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20170220_1.html)

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>